

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」

総括表

法人名	株式会社 いきがいクリエーション	代表者	田村浩介	法人・事業所の特徴	「いきがいと共に歩む」を理念にご利用者・ご家族、地域のみなさま、スタッフいきがいと共に歩むサポートを通して「いきがいと共に歩むまちづくり」をお手伝いします。「自立支援」「重度化防止」の考え方を持って地域のみなさまの「社会参加」をお手伝いします。
事業所名	小規模多機能ホーム いきがいのまちなるま	管理者	知念亨人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	2 人	2 人	1 人	1 人	1 人	0 人	10 人	1 人	19 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・2～3 か月に一度家族や地域と関われるレクやイベント企画を実施し、繋がりを強めていく。 ・定期的に当スタッフが他事業所へ出向き、環境を変えた学びを増やすことでご利用者へより良い提供が行えるようにしていく。 ・3 ヶ月に一回の自宅アンケートをとる	・家族へ案内したイベントは年3 回程度できた。 ・アンケートに付いては、目的がしっかりとまとめられなかった。 ・興味関心チェックシート活用して取り組めた方もいたのですが、申し送りが上手いかわず継続できていないこともあった。	・自己評価の総人数からの意見が数字に反映されており、取り組まれているのが確認できた。 ・事業所全体で自己評価に取り組んだ様子が伺える。 ・出来ている点、出来ていない点も把握されており適切に評価を実施されていると思う。	・2～3 か月に一度家族や地域と関われるレクやイベント企画を実施し、繋がりを強めていく。 ・定期的に当スタッフが他事業所へ出向き、環境を変えた学びを増やすことでご利用者へより良い提供が行えるようにしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	・環境は声掛けし、ご利用者・ご家族・地域の皆さまと協力を得ることができるように連携していく。 ・週1 回事例検討会を行い、ケアプランなどを確認し、話し合った内容を全体に共有し伝達していく。 ・月2 回程度、事例検討会を行い小規模計画書に反映させる。 ・送迎ができないスタッフについては、送迎スタッフと送迎や訪問に同行する。	・家族との連携を常にとるようにし、日常生活の支援はチームとして出来ていたと考えます。 ・少しでも日々の変化があれば情報共有に心がけた。 ・利用者がどのような生活で過ごしたいのか聞き取り取り組んだ。 ・訪問時、家族様からの情報や体調変化など敏感に対応し指示を仰ぎ、適切な対応ができていた。	・事業所内で改善目標・計画を熟知し取り組んでいたのかが分からない。 ・駄菓子販売は良いと思う。 ・健康麻雀クラブなど、地域の高齢男性者を意識した取り組みを行なっていて良かったと思う。	・環境は声掛けし、ご利用者・ご家族・地域の皆さまと協力を得ることができるように連携していく。 ・週1 回ミーティングを行い、ケアプランなどを確認し、話し合った内容を全体に共有し伝達していく。 ・月2 回程度、事例検討会を行い小規模計画書に反映させる。 ・駄菓子販売は再開を目指す。 ・野菜栽培・販売・飲食提供を目標とする。 ・地域高齢者のニーズを把握し気軽に参加できるようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	・地域ケア会議へ定期的に参加し情報を持ち帰り、スタッフとの情報共有を行う。 ・地域のイベントにスタッフが参加し顔なじみの関係になるようなシフト作成を行う。 ・地域資源について学んでいく。 ・近隣にある学生さんへボランティア活動の依頼を行い参加していただくなど連携を図る。 ・地域へ解放できるような大人も子どもも立ち寄れるような居場所を作り、地域との連携を図る。	・自治会の行事・ミーティングに参加できている。 ・地域ケア会議で話し合った内容は共有できることは行い、イベントに参加できた。 ・地域資源の学びについては足りなかった。 ・地域の方と顔見知りになり、地域との交流が増えた。 ・地域の学生ボランティア活動のサポートを行った。 ・地域に開放された施設跡をコミュニケーションの場として提供することができた。	・地域の方でも場所を知らない方が多いと思う。場所案内板？ ・困りごと、相談事があった場合、包括と連携し利用に繋げる例も多かった。 ・地域行事・イベントに参加できていた。	・各自治会開催の地域ケア会議の参加、スタッフとの情報共有を行う。 ・地域のイベントにスタッフが参加し顔なじみの関係になるようシフト作成を行う。 ・地域資源について学んでいく。 ・近隣にある学生さんへボランティア活動の依頼を行い参加していただくなど連携を図る。 ・地域へ解放できる居場所を作り今後も行う。 ・大通りから見える看板や横断幕、道の入り口への案内板を設置する。 ・季節にちなんだイベントを計画し地域行事にも参加する。

D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み	・週 1 回事例を上げ、ケアプランなどを確認し、話し合った内容は全体で共有できるようにする。 ・地域ケア会議へ定期的に参加し、情報を持ち帰りスタッフとの情報共有を行う。 ・月 1 回の勉強会（介護士、看護師、リハビリ）を実施していく。 ・できるだけ買い物支援をおこなう。	・利用者と一緒に、オレンジカフェに参加した。 ・買い物支援でショッピングに出かけた。 ・月一回の勉強会がなかなかできなかった。	・天気の良い日などは、散歩がてらゴミ拾いなどを行っている様子がうかがえた。 - また、玄関先でのカフェタイムをしているのも良かった。 ・買い物支援があるのは良い。	・天気の良い日などは、散歩がてらゴミ拾いするなどの活動を行う。 ・本人が行きたい場所や、参加したい場所へ行くのを手伝いする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・運営推進会議で話し合われた内容をスタッフ間で共有できるようにミーティングや記録に残していく。	・運営推進会議で得られた情報を職員間で共有が行えていなかった。 ・各自治会の行事に積極的な参加が行えておらず交流が足りずにいた。	・「いきがいのまち新聞」で毎月の行事やイベント活動写真などで取り組みがうかがえた。 ・地域でのイベントに参加できていた。 ・スタッフの中で地域とのかかわりができていない方がいるようです。今後会議に参加し現場でのお話をして頂けたらと思いました。	・運営推進会議で話し合われた内容をスタッフ間で共有できるようにミーティングや記録に残し実践していく。
F. 事業所の 防災・災害対策	・月 1 回の勉強会の中に BCP の勉強会を取り入れスタッフで共通認識が持てるようにしていく。 ・継続して BCP の規定等の見直しを行っていく。 ・自治会や他施設の BCP 対策の企画に参加出来るように連絡を取り合いながら連携を高めていく。	・年 2 回防災訓練、市内防災訓練を行うことが出来 ・感染対策については法令研修で看護師を中心に話し合い活動へつなげることが出来ていた。 ・BCP 研修に参加できていたが、事業所内での決めごとと決まり事、避難場所について曖昧だった。	・防災訓練や・地震避難訓練などいきがい新聞で確認しました。 ・災害の種類に応じて訓練や対策の継続をお願いします。	・地域の防災訓練にも参加していく。